

令和 6 年度 第 33 回全国女性建築士連絡協議会（東京）分科会概要一覧

分科会名称	コメンテーター	概要
A分科会 来年は山形県開催！ 「魅力ある和の空間ガイドブック」 part6	三浦 仁恵 古川 美紀 （山形県建築士会）	<p>連合会女性委員会では、2016年から『和の空間』をテーマに「魅力ある和の空間ガイドブック (WEB版)」を制作し、HPにて公開しています。過去5回に渡りセッションや分科会で掲載施設を紹介して来ましたが、第6回目となる今回は、来年の全建女開催地である山形県を取り上げます。</p> <p>山形県は世界有数の豪雪地帯であり、出羽三山や最上川をはじめ雄大な自然に恵まれています。また日本海側は北前船が行き交う要衝の地でもありました。多様な暮らしや文化、食を背景に、各地に受け継がれる商家や料亭、茶室など歴史的な建物をご紹介します。</p>
B分科会 インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策「JOL防災」	柏原 民 （大阪府建築士会）	<p>室内の防災対策である家具転倒防止策・家具固定策について、2011年からの家具転倒防止策・固定対策に関する様々な活動の紹介、住まいの作り手であるインテリアコーディネーターや関係者向けにまとめた「JOL防災」の内容やその小冊子の制作経緯、又、家具のレイアウトや動線計画、下地対策などプランニングの視点から出来る事、家具固定の現状等含めてご紹介します。</p> <p>「防災を優先すると残念なインテリアになる」という諦めの声を聞くことも多く、理想の暮らしと室内の安全を両立させるにはどうしたらよいのか。固定の呼びかけだけでなく、住まいや空間の作り手として具体的に建築士にも出来る事を共有し実践していく事で少しでも室内の防災対策が浸透していく事を皆さんと共に進めていきたいです。</p>
C分科会 「民家の土塀修復・保存の取り組み」	吉井 千恵子 （香川県建築士会）	<p>土塀を修復し再生させる「秋川土塀再生プロジェクト」。</p> <p>まんのう町羽間にある3棟が隣接した土塀のある民家で、粘土質の土と藁、石灰や小石など自然素材でつくられた土塀の伝統的な姿を後世に伝えていくため、大正3年につくられた土塀の修復・保存を主活動とした「秋川土塀再生の会」の取り組みなどについて紹介します。</p>
D分科会 「変えていく！建築士会」～バージョンアップへの道～	杉原 尚子 丹羽 哲矢 （愛知建築士会）	<p>会員減少、年齢構成、要求の多様化など私たち建築士、建築士会を取り巻く様々な環境の変化がある中、バージョンアップする必要性を感じている方は多いのではないのでしょうか。昨年の全国大会しずおか大会女性委員会セッションにおいて「思いっきりバージョン UP!」と題して全国の様々な取り組みをお伺いしましたが、その時にもご報告いただいた愛知の会員拡大の取り組み、学生会員との協働のその後とこれからについてお伺いし、「わたしたちの建築士会」のこの先を考える機会としたいと思います。</p> <p>参加型のワークショップを行います。テーマは3つ！</p> <p>【アピールCM&キャッチコピー】【予算5万円！事業提案】 【バージョンアップに必要なもの】</p> <p>(詳細は参加者に別途お知らせします。)</p>

<p>E分科会 すまい学習をサポート します あれから ～続・兵庫県建築士会住 教育支援チームの取り 組み～</p>	<p>八木 景子 (兵庫県建築士会)</p>	<p>2006年、住教育支援チームとして結成された活動について、平成26(2014)年、第24回の全建女で発表させていただいた後も、毎年継続して小・中・高校等での家庭科・総合学習などの事業で、ゲストティーチャーやカリキュラム相談を行ってきました。</p> <p>チームとしての活動を18年継続してきた中で、思いがけないパンデミックや社会の変化もありましたが、この間の活動で『変わったこと・変わらなかったこと』について共有させていただけたらと思います。</p>
<p>F分科会 女性部会情報誌「フフ」 の発行経緯と女性部会 の今後について</p>	<p>日野 緑 渡辺 睦 (岡山県建築士会)</p>	<p>岡山県建築士会女性部会では、1995年から活動報告として女性部会情報誌「フフ」の発行を行ってきました(年4～6回)。情報誌の発行経緯及び内容について紹介するとともに、会員減少(役員等の後継者不足)、ジェンダーフリー、多様性社会などを背景に、「そもそも女性部会としての存続意義はどこにあるのだろうか?」と部会内外で協議を重ねている道程を全国の女性建築士と共有したいと思えます。</p>
<p>G分科会 未来につなぐ環境建築 への取り組み～地方の 建築技術者が出来るこ と～</p>	<p>松田 まり子 (沖縄県建築士会) 板場 奈美 (大分県建築士会)</p>	<p>2050年までのカーボンニュートラルの実現や2025年からの省エネ基準の適合義務化を踏まえ、各県では環境建築への取り組みが行われています。</p> <p>前半は、日射遮蔽や風通しの良い住まい、内外の境界を上手に使うことで環境調整を行う技術が発達して来た沖縄県の設計手法をご紹介します。</p> <p>後半は、大分県建築士会が大分県より委託されて行なっている「建築物グリーン化促進事業」の技術者への啓発や県民への意識醸成に関する取り組みをご紹介します。</p>